

## 第40回経営協議会議事録

I 日 時 平成22年10月25日(月) 14:00~15:13

II 会 場 筑波大学本部棟8階特別会議室  
(茨城県つくば市天王台1-1-1)

III 出席者〔学外委員〕

石田瑞穂、金澤一郎、古賀正一、末松安晴、西野虎之介

〔学内委員〕

山田信博、清水一彦、赤平昌文、塩尻和子、森本浩一、鈴木久敏、五十嵐徹也、阿部生雄、  
宇川彰、西川潔

〔オブザーバー〕

今井調整官

IV 議 題

〔報 告〕

- (1) 教育研究体制の在り方検討委員会の審議状況について ----- [資料1]
- (2) 「第1回筑波大学研究成果発表フォーラム2010」について ----- [資料2]
- (3) 第79回教育研究評議会報告 ----- [資料3]

V 議 事

冒頭に、新たに就任した今井 寛調整官から挨拶があった。

また、学長より陪席している各部局長(研究科長、学群長)の紹介があった。

〔報 告〕

1 教育研究体制の在り方検討委員会の審議状況について

始めに、山田学長より在り方検討委員会における中間報告に寄せてのコメントがあり、次いで鈴木理事から、資料1に基づき、教育研究体制の在り方検討委員会の審議状況についての経緯・報告があった。

各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)

○ 筑波大学が作られた原点に戻って議論しようという、筑波大学らしい議論であり、とても心強い。なお、筑波大学の将来像の検討や大学全体のかじをきるという場合には、ヘッドクォーターが必要ではないか。

△ ヘッドクォーターについては十分に議論できていないが、本部がその機能を担わなければならない。教員の研究を考えた場合、教員組織の中に研究戦略を担う人が当然いるべきであり、その人たちが集まって、かつ、本部と一緒に研究戦略を練るべきと考えている。

○ 医工連携など分野横断の場合は、この案では実際どうやるのか。

△ 教育については、それに適した学位プログラムを制作することであり、研究については、関心を持つ教員が集まって、萌芽的な研究プロジェクトを大学に登録することから始まり、やがて大学で認識され、更には大学から支援される研究チームになっていく。それはボトムアップとトップダウンの両方あってよいのではないかと考えている。

医工連携の代表的例では、山海教授のサイバニクスがある。現段階で、新しくサイバニクスの専攻を作る場合には、医学や工学の分野から先生を引き抜くこととなり、その先生が担っている教育がつぶれてしまうという議論があるので、現在の専攻に所属しているという考え方を取り去らないと難しいということで、教員組織に所属させ、ホームグラウンドを制作ことにした。

○ ぜひとも成功させていただきたい。

なお、教育の実際のやり方がITやネットワーク社会によって変化しており、学部レベルの教育方法も新しい段階に踏み出すことは検討しているのか。

△ 教育の将来像は学位プログラム化ということで、現在は学類や専攻ごとに人材像やカリキ

ュラムを作っているが、今後は個々の学位の方から人材像、カリキュラム、アドミッションポリシーを作る作業を全学的に進めようとしている。特に学士力という観点から、先導的にITやICTなどにより、教育方法のイノベーションを進めて行きたい。

○ 現在の間人総合科学研究科をこれだけ大きな組織にした理由についてお答えいただきたい。また、教育研究科はどうするのか。

△ 人間総合科学研究科は、「人間」をキーワードにして統合型のディシプリンとして発足した。当時は、文科省の予算要求上、大学の指定職の数に合わせて6部局しかできなかった。ビジネス科学研究科もひとつの部局としなければならず、どの分野を組み合わせるかの議論が先にあった。しかしそのお陰で、人間分野から医学分野までまとまってできる教育ということで、三つの学際的な専攻ができたので、そういう点では意味があったと思っている。

教育研究科は教員養成の部門になっており、全学の教員が参加して初めてできるものであり、現在は修士課程のみであるが、もっとも学際的な教育の形をとっているのも、どこかの教育組織に所属させることはできない。

## 2 「第1回筑波大学研究成果発表フォーラム2010」について

赤平理事から、資料2に基づき、「第1回筑波大学研究成果発表フォーラム2010」の実施について報告があった。

## 3 第79回教育研究評議会報告

学長から、資料3に基づき、前回の本会議以降に開催された、第79回の教育研究評議会の議事の概要について報告があり、審議事項の平成21年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について、宇川副学長から補足説明があった。

(議事終了後、学内視察及び懇談会が行われ、活発な質疑応答・意見交換が行われた。)

以上